

(町田市教育委員会)

指導力向上リーフレット

育成を目指す資質・能力

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出ししたりすることが重要です。以下のポイントを踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進していきます。

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【対話的な学び】

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【深い学び】

「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

授業をデザインする8つの取組

- 見通しをもたせる導入
- 発問の工夫
- 価値ある対話の共有
- ICT機器の活用
- 思考ツールの活用
- 構造的な板書とノート指導
- 振り返りの設定
- 認め合う・学び合う集団の形成

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

2020年4月 町田市教育委員会



主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくり

これまでに取り組んできた協同的探究学習の成果を基に、授業をデザインする8つの取組を積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりを推進していきます。「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの資質・能力を育成するためには、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要であることが、学習指導要領解説国語編で示されています。各教科等において身に付けさせた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより「見方・考え方」が鍛えられることを留意し、児童が、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したりすることができるようにしていくことが大切です。

育成を目指す資質・能力、「見方・考え方」の明確化

育成を目指す資質・能力を育成するための指導計画の作成

1

「単元（題材）で育成を目指す資質・能力」と資質・能力を育成するための「見方・考え方」を明確にする。

2

「単元（題材）で育成を目指す資質・能力」と「見方・考え方」を、相互に関連付けながら学習活動等を設定し、指導計画を作成する。

★「単元の目標」と「単元で育成を目指す資質・能力」を明確にするための、評価規準を設定します。
《単元・題材名》
第2学年 国語科
『お手紙』を読んで、登場人物に手紙を書こう
教材名『お手紙』（光村図書2年下巻）
《単元の目標（例）》
（1）知識及び技能
○語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。
（2）思考力、判断力、表現力等
◎場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力を養う。
○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるようにする。
（3）学びに向かう力、人間性等
○粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとする態度を養う。

《評価規準（例）》

知識・技能	語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読している。
思考・判断・表現	「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。
主体的に学習に取り組む態度	粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。

★国語における「言葉による見方・考え方」
対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

【授業改善のポイント】
国語の特質に応じた学習活動を設定し、指導計画を作成することが大切です。
「単元で育成する資質・能力」を育むためには、子どもが「どのような視点で物事を捉え、どのように思考するか」を教師が計画していくことが大切です。

「場面の様子に着目して、想像することができる」
「見方・考え方」を明確にした学習活動 達成目標



時数	ねらい	学習活動	評価
1		題名読みをして、学習の見通しをもとう	
	どんなねらいか	どんな活動をするのか	どんな方法で、どの観点を見取るのか
2 ～		本文を読み、登場人物の気持ちを考えよう	
		○場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読む。 【深い学びを目指した授業】 （第8時／本時） ◎がまくんは、なぜ「いいお手紙」と思ったのでしょうか。 ◎がまくんは、お手紙のないように聞いて、どんなことを考えたでしょう。	
10			
11		登場人物に手紙を書こう	
12			

【評価規準の作成のポイント】
◎基本的に、当該単元（や題材）で育成を目指す資質・能力に該当する〔知識及び技能〕〔思考力、判断力、表現力等〕の指導事項について、その文末を「～している」として、評価規準を作成する。
◎知識及び技能を獲得したり、〔思考力、判断力、表現力等〕を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。文末は「～しようとしている」とする。
（参考：国立教育政策研究所 参考資料（案）R1.11）

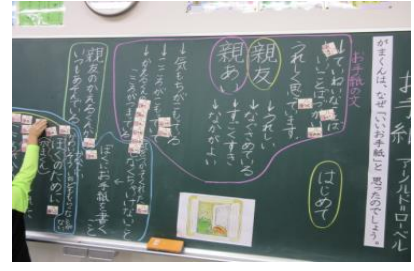
◎国語の特質に応じた学習活動について
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し、自分の思いや考えを深める学習。

「見方・考え方」を働かせ学びを深めている子どもの姿を引き出すための指導の工夫

3

「見方・考え方」を働かせて学びを深めている子どもの姿を引き出すために、授業をデザインする8つの取組を取り入れたり、教師の指導の手だてを考えたりする。

《本時の展開（例）》第8時／全12時 ※学習の基盤として **認め合う・学び合う集団の形成** が重要です。

	○学習活動 C：児童の反応	授業をデザインする8つの取組 ◆留意点
導入	がまくんは、なぜ「いいお手紙」と思ったのでしょうか。 ○本文を読み、ワークシートに自分の考えを書く。	見通しをもった導入 発問の工夫 ◆手紙をもらう前のがまくんの気持ちがどうだったか、かえるくんがどのように手紙を出したかなど、これまで学習したことをもとにして、考えさせる。
展開	○出された意見に対し、黒板を使って関連付けていく。 教師の切り返しにより、話し合いを本質に向かわせる。 C：自分が初めてもらったお手紙だから。 C：自分のことを親友だと書いてくれてうれしかったから。 C：手紙をもらったことのない自分のために、わざわざ書いてくれたから。 構造的な板書とノート指導 	価値ある対話の共有 ◆「親友」という言葉など、手紙の内容についての意見が出されることが想定されるが、教師の選択的な切り返しにより、話し合いを深め、かえるくんが「なぜ」「どのように」渡したものであるかに目を向け、多面的・多角的に思考させていく。 ◆話し合い後、黒板の友達の考えに「いいねマーク」を貼りに行かせることで、自分の考えとの違いを対比させ意識しながら聞かせる。 ◆話し合いや関連付けをもとに、学級全体で、がまくんとかえるくんの深い友情や心の通い合いに気付かせる。その上で、個が手紙の内容を吟味することで、より主題に沿った視点をもって意見を書かせる。 ◆学習した内容は、各時間模造紙にまとめ、教室内に掲示する。児童は、本文、これまでのワークシート、掲示物をヒントにしながら自分の考えをまとめさせる。
終末	○がまくんは、お手紙のないように聞いて、どんなことを考えたでしょう。 C：こんなにかえるくんが自分のことを考えてくれていると知って、嬉しい。 C：自分には素敵な親友がいたことに気が付いた。	ICT機器の活用（重点事業 ICTを活用した教育の推進） 《Chromebookの活用例》—G Suite for Education— ◆児童の学習意欲を高めるとともに、物語の本質に迫ることができるようにするために、必要に応じて大型提示装置に教科書の挿絵等を映し出したり、児童に考えさせたい場面で「問い」を提示したりする。 ◆発達段階や学校の実態に応じて、スプレッドシートを活用し共同編集を通して、考えたことを共有する。 ※ICT活用事例集参照 （共有ドライブ：999chromebook 活用—活用事例集） 振り返りの設定 ◆話し合いや関連付けをもとに、学習を振り返らせる。学級全体でがまくんとかえるくんの深い友情や心の通い合いに気付かせる。その上で、手紙の内容を吟味することで、より主題に沿った視点をもって意見を書くことができるようにするとともに、次時の学習への見通しをもてるようにする。

※教科等、単元によって、**思考ツール** を活用することも有効です。

学力調査結果の分析と活用

学力・学習状況調査結果を分析する上で下記の例を挙げたように、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果報告書等を参考にし、各校の児童・生徒の具体的な課題を明らかにしましょう。

各教科の問題別の正答率から特に正答率の低い問題を取り上げ、児童・生徒の課題を明らかにする。

【分析のポイント①】

各教科の正答率について自校の結果を見て、全国平均値、東京都平均値と比べたり、四分位によるC層、D層の割合を比べたりするだけでなく、**問題ごとの正答率を見てみましょう**。自校の児童・生徒の習得状況を把握し、どのような問題ができていないのか、課題が明確になります。明らかになった課題を踏まえ、授業改善推進プランを作成しましょう。

④漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことに課題がある。

大問1 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

※児童が報告する文章を読み返すという場面設定の下、文脈の中で漢字（同音異義語）を正しく書く問題を出題。

設問四（1）ア

「地いきの人三十人を調査の『たいしょう』として、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ・・・」という文章の下線部を正しい漢字で書く問題

- ・「対象」と解答している：**正答率：42.1%**
- ・「対照」と解答している：3.4%
- ・「対称」などと解答している：29.3%

設問四（1）ウ

「今回の調査を通して知ったことを・・・多くの友達に伝え、公衆電話について『かんしん』をもってもらいたいと思います」という文章の下線部を正しい漢字で書く問題

- ・「関心」と解答している：**正答率：35.8%**
- ・「感心」と解答している：46.9%

質問紙調査結果から児童・生徒の興味関心と正答率のクロス集計から課題を明らかにする。

【分析のポイント②】

質問紙調査結果から児童・生徒の興味関心の状況を把握しましょう。さらに、正答率とのクロス集計を見ることで、より具体的な課題が明確になります。例えば、「国語の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。質問紙項目ごとのクロス集計の結果から、自校の児童・生徒の具体的な課題を明らかにし、学校全体で授業改善に取り組むことが大切です。

学校質問紙調査の結果等も踏まえ、学校全体の問題として、課題を捉え、教職員全体で情報を共有しましょう。主体的・対話的で深い学びの視点から、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、国語、算数・数学、英語ともに平均正答率が高い傾向が見られています。



校内OJTの充実と町田市スタンダード授業観察シート（例）の活用

右の図1はラーニングピラミッドです。ラーニングピラミッド（Learning Pyramid）は、人間の学習の定着率に関する序列を表したものです。アメリカ国立訓練研究所（National Training Laboratories）の研究によって明らかにされた理論とされています。

「人に教える・説明する」ことが、学習の定着率を図る上で一番効果的であることが分かります。話し合いが目的にならないよう、対話の必然性を考えることが大切です。また、教職員の校内研修においても同様です。

「主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善」に組織的に取り組む中で、校内研修等において授業観察の際に活用する授業観察シートの一例として、「町田市スタンダード授業観察シート（別紙）」を作成しました。ぜひ積極的に活用していただきますようお願いします。

「図1 ラーニングピラミッド」

